資料：「体罰を考える講演会」逐語録

Document：A Literal Record of “Lecture on Corporal Punishment ”

加藤　誠之（高知大学教育学部）[1]

山田　優美子（学校事故事件遺族連絡会）[2]

船越　克真（船越教育相談室）[3]

KATO Masayuki[1], YAMADA Yumiko [2] and FUNAKOSHI Katsumasa[3]

1 *Faculty of Education, Kochi University*

2 *Association of Families of the Deceased in School Accident or Criminal Case*

3 *Funakoshi Guidance Room*

ABSTRACT

21st July 2015, we had a lecture titled “Lecture on Corporal Punishment” in Taiheiyo Gakuen High School (a private high school in Kochi City, Kochi Prefecture, Japan). Then We had two lecturers ; YAMADA Yumiko（Meeting of Families of the Deceased in School Accident or Criminal Case）, who lost her second son from the violence by the advisory teacher of a club activity(baseball) and FUNAKOSHI Katsumasa(Funakoshi Guidance Room), who was a teacher in reformatories for delinquent juvenile. This document is a literal record of their lectures.

1　はじめに

高知大学教育学部生徒指導研究室(代表者:准教授　加藤誠之，以下「本研究室」とする）は，2015 年 7 月 21 日（火)，山田優美子さん（学校事故事件遺族連絡会）と船越克真さん（船越教育相談室，元法務教官）を招き，私立太平洋学園高等学校（高知市栄田町 1-3-8）で「体罰を考える講演会」を開催した。本稿は，講演内容の逐語録である。

なお，本逐語録は，録音データを業者に依頼して文字に起こしてもらったものである。聞き取りづらい箇所については，一部を「　…（略）…」としてある。

2　講演者の紹介

山田優美子さんは，2011 年 6 月，次男の恭平さん（当時 16 歳，高校 2 年生）を部活動の顧問の暴力に起因する自殺で亡くした。その後,「学校事故事件遺族連絡会」の発起人になり，反体罰の活動に参加している。現在は愛知県在住である。

船越克真さんは，かつて法務教官として法務省に勤務し，加古川学園（少年院)・奈良少年院で非行少年の処遇に携わった。法務省退職後，幾つかの職業を経て，2012 年に船越教育相談室を開設して教育相談に携わり，反体罰の活動にも参加している。現在は京都府在住である。

3　山田優美子さんの講演

山田　失礼します。よろしくお願いいたします。先ほどの自己紹介で，四国，高知，四国に上陸するのは初めてだと申しました。四国だけではなくて，例えば北海道も，息子が亡くなってから初めて北海道に，息子のことで北海道に。もともと旅行っていうことはあんまり興味がなくって，結構若く 23 で長男を出産しましたので，旅行に行くっていうこともほとんどなかったんです。なので，我が家の次男，恭平が亡くなってから，恭平のことで本当に活動範囲が広くなって，いろんな方と知り合ってきましたし，いろんな方にこういうふうに伝えさせていただける機会を，今回は加藤さんにいただいて本当に感謝しております。ありがとうございます。子どもが自殺で亡くなった親がこうやって人前で話すっていうことを，多分あまり見られたことがないと思います。私も全国いろんなご遺族と会って，やはり皆さん，ものすごく自責の念を持っている。いじめ自殺であったり，教育のパワハラであったり，いろんな理由があるんですが，そういった原因があったにしろ，子どもが自殺するっていうことは，最終的には止めれなかった親の責任っていうことを絶対心の中に持っているんですね。申し訳ないっていう気持ちになります。成人して社会に送り出すことができなかったっていう，そういう申し訳ない気持ちもありますし，本来でしたら，もう皆さん遺族の方，人前に出ることなく，静かにしている方が多いと思います。ただ私がどうして，こうやっていろんな場所で機会をいただけるたびに，本当にありがたく思ってあちこち行っているかというと，うちの息子，恭平の自殺の原因かどうかは，まだはっきりはわからないんですけれども，彼が置かれていた状況の中に，部活での体罰が間違いなく存在していたと。そういうことがあったものですから，今この瞬間にも全国どこかの部活で，教員の暴力が怖い怖いと思いながらおびえながら，もしかしたらもう部活に行けなくなっていたり，学校も辞めようかって思ってるかもしれない。そういう子がいると思うと，いても立ってもいられないんですね。いろんな考えの人がいるんですけれども，学校であってはならないことだということになっている恥ずべきことが起きている。それは，何とかなくしていきたいなという気持ちでおります。なので，恥も外聞もなくと言います，私はいつも。恥も外聞もなく，こうやっていつも自責の念とは別の位置でしゃべらせていただいてます。わが子に謝るのは，もう別としてという気持ちでいます。恭平という名が，柴田恭兵のファンだったので，私が（笑)。

会場　（笑)

山田　年が若いんですけれど，ちょっと漢字は借りてきたんですけれども，恭平っていう響きも気に入ったので，恭平と名づけました。本当にかわいいキューピーみたいな赤ちゃんで，目がくりくりっとして,親が言うのもなんですけど本当にかわいい。で，どこに連れていっても，かわいいねって言われるような子で，ちょっと歩くようになっても，いっつもにこにこ笑っていて，ただしゃべらなかったんです。2 歳を過ぎても言葉が出ない。あれ？この子ってしゃべらないなって気がついたんですけれども，その代わりに彼は左手で，左利きだったんで，左手ではさみを持って，しゃべるより早く折り紙を切ったり貼ったり，2 歳上のお兄ちゃんと 2 人一緒で，もう切ったり貼ったり何か作ったり。しゃべるより先に手を動かすっていうことを覚えたような，器用な子でした。それは工業高校も自分から選んだっていうところにも現れているんですが，本当に手先が器用でかわいらしくって，男の子と何とかレンジャーって戦闘物の遊び

をするよりも，女の子のままごとをしたり折り紙をしたり，キャッキャキャッキャ言って女の子に同化しているような，そんなような子でした。そういう本当にかわいらしい子だったんですけど，小学校の１年生になったと同時に，２歳年上のお兄ちゃんの友達から少年野球のチームに誘われまして，１年生の弟，１年生から入る子ってあんまりいないですね，私たちの地区では。３年生ぐらいからみんな始める。で，お兄ちゃんは３年生になって，友達とやろうよって入ってる。弟の恭平は，私が一緒に見に行ったので，一緒に連れてった程度だったんですけども，お兄ちゃんは１カ月しないうちに，俺嫌だってやめてしまった。なんですが，恭平がものすごくはまってしまって，すごく楽しい。で，１年生はそのとき他にいなかったんですけれども，特別に入れていただいて，１年生から少年野球を始めることができました。それが野球との出会いです。本当に野球が大好き。もう幼稚園のときあんなにかわいかったのに，何か野球野球，野球一色の少年になってしまいまして，ずっと学年を重ねてきたんですが，６年生になったときに新しく着任したコーチが非常に暴力的な方で，常に怒鳴って，子どもたちを怒鳴りながら指導するんですね。子どもたちは，そのコーチの怒鳴り声を背にしながら，泣きながらボールを追っかけるような状況で，本当だったら小学校ぐらいのうちは野球の楽しさのほうを知ってもらいたいなと思って入れたものですから，いや，これはどうなんだろうって思っていたんです。ただ，うちの恭平はもう１年生から入っていたこともありまして，コーチに怒鳴られたりっていうことは，本人はなかった。なんですが，６年生になってゴールデンウィークになる頃には，恭平は本当にやめたい。友達がいっつも怒鳴られて怒られて，そういうのを見ながら野球はやりたくないって言うんですよ。だけど，恭平くんが怒られてるわけじゃないよねって言ったら，そうじゃない。僕は怒られないんだけれども，友達がいつも怒られてるのはすごく嫌だと。それを聞いたときに，この子はこんなに優しくていいのかな。そんな人のつらい様子を見て自分がつらくなって，あんなに好きな野球をやめたいって言うほど。いや，これっていいのかなと一瞬思ったんですけど，いやいや，人のつらさを自分のことのように受け止められるっていうことは，人間にとって宝なんじゃないかと思って，そんなことを我慢しなさいとか，ちょっと私には言えなかったんですね。で，監督とも話をしましたが，コーチもいろんな人がいるんでっていうことで，なかなか改善はされない。で，やめさせてもらったということになります。６年生の５月にやめてしまったと。もう友達もみんな家にまで来て，恭平，野球続けようよ，続けようよ。あとちょっとで卒業だから，一緒に卒団式やろうよって。確かに１年生から一番長くやってきて，卒団式の直前でやめるっていうことはあり得ないことで，父母の，保護者の方たちからも，ここで我慢させなきゃとか言われたんですけど，いや，そんな嫌々行かせるのもなと思って，もうちょっとごめんなさい，恭平が嫌だっていうのでっていうことでやめさせて，でも野球が好きな気持ちは変わらなかったので，中学校に入学すると同時に中学校の野球部にまた入って，野球を始めることになりました。中学校３年間は非常に楽しくといってはあれですけども，非常に厳しい部活だったんですけれども，監督が努力していく子を認めてくれる，頑張る子を認めてくれる。そういういい先生が教えてくださって，本当に厳しかったんですけど，本人的にはすごいやりがいがあって頑張れて，無事に卒業まで野球部にいることができました。で，どんどん野球が好きになって，高校は先ほど言ったみたいに物作りが大好きだった。工作がともかく大好きで，夏休みの宿題，市長賞をもらったりとか，そういうちょっとアイデア賞なところなんですけれども，そういうこともありまして，工業高校に見学に行く機会があって帰ってきたら「お母さん，すっげえいっぱい機械があったよ。俺，あれさわっていいんだって，あれやらせてくれるんだって。俺，工業高校行っていい？」ぐらいな，こういう前のめりな感じで言ってきて，「そうだよね。恭平は本当に何か作るの好きだし，いいんじゃない？」っていうことで，その高校に行くことに決めました。それと同時に，その工業高校は野球部がすごく頑張っているっていう評判があって，先輩たちからそういう話を聞いて，好きな工業高校にも入れて野球部も頑張って，もう絶対にここはいいって思って，本人は入学と入部をしました。それが 2010 年４月のことです。最初こそ楽しそうに行ってはいたんですけど，秋口ぐらいからだんだん様子が変わってきまして，あの監督ちょっとやだっていうところから，ちょっとやだって何が嫌だ？すぐ怒る。え？すぐ怒るってどういうことかなって思って聞くと，何かたるんでるとか，よそを見てたとか，そういうことで殴ったりすると。「え？そんなことで殴るの？」

って言うと，殴るという，そういうことをちょこちょこ口にするようになりました。で，もうどんどん愚痴の回数が増えてきて，いや，そんなに殴ってて，私があまり練習を見に行くと，子どもがそんなに来ないでって言うような子だったので（笑），練習は見に行かなかったんですが，いつも見ている親御さんがいて，親御さん見てても何にも言わないのかなって思ったんですね。恭平にも，「恭平も殴られてるの？」って聞いたら，「いや，俺は殴られてないけど，友達が殴られてるのを見るのがやだ」。あれ？それ小学校のときにも聞いたようなセリフだなと（笑），思いながら，そりゃそうだよね。で，止めれないのも嫌だ。もちろん，先生が殴ってるので止めれるはずがないんですけれども，それが本人の中では理不尽なことで怒られてると，殴られてると本人は思ったみたいで，それが止めれないことがつらいと言うようになりました。私が甘かったのは，恭平が殴られてないのに，学校にそのことで話をしに行こうかどうしようかって，あんまり思わなかったことです。殴られてるこの親御さんが，きっと学校に言いに行くだろうと，そのくらいな。そのうちどんどんひどくなりエスカレートするんだったら，誰かがそのうち言うだろうと。それくらいに思ってしまって。それが痛恨のミスというか，私が甘かった部分なんですが，それは恭平が亡くなったあとにそう痛感することになるんですけれども。本当に友達が好きで，いつもにこにこして男の子とも女の子とも仲がよくって，亡くなったあとに知らない子が来たんですね。中学校の同級生だったみたいなんですけど，名前も顔も知らない。「恭平くんと仲よくしてくれてたの？」って聞いたら，すごく仲よくしてくれましたって言うんですね。「仲よくしてくれたって何？恭平のほうが何か偉いみたいな言い方するけど，何で？」って言ったら，いや，自分はすごく実はいじめられてて，お母さんがフィリピン人だと。すごくいじめられてて，要は中学校は仕方がないけど，高校はもう行きたくないと思ってた。でも3年生になって恭平と同じクラスになったら，恭平がすっごい普通に話しかけてくれてびっくりしたと。で，「俺，高校なんか行かない」って言ったら，「なあ，行こうよ」って言ってくれて，それで，じゃあ行ってみようかなって思いました。そうじゃなかったら，僕は高校も行かなかった。だから本当に恭平には感謝してるって言ってくれたんですね。そういうことはほかにもあって，不登校気味の幼稚園からの幼なじみの子のお母さんに私がスーパーで会うと，うちの子が久しぶりに学校に行ったら，恭平くんがわざわざ声をかけてくれて，「なあ，もっと学校に来いよ」って言ってくれたって，うちの子がすっごい喜んで言ってくれた。ありがとねって言われて初めて知るんですね。で，恭平に，今日誰々ちゃんのお母さんに店で会ったら，そうやって言われたよって言ったら，ああ，ふうん，へえ，くらいな言い方でそっけないんですけれども，ごめんなさい，涙がちょっと。そんな感じの子でしたね。話がそれてごめんなさい。本当に一事が万事そんな感じで，エピソードで言うと，『火垂るの墓』っていう映画が，あの子1回うっかり見てしまった。それからもう毎年やるから，夏にやるんですよね，夏休みに。そうすると，次の年からは『火垂るの墓』を，「俺はあれだけは見ねえ。あれだけはかわいそうすぎて見れん」って。ほかの映画で見れないなんてことはないんですけど，あれだけはかわいそうすぎて見れないといって部屋にこもっちゃう。あの映画は，お兄ちゃんと年の離れた妹がいまして，本人にも5歳下の妹がいますので，重ねて考えてしまったのか，背景がかわいそうだと思ったのかわからないんですけど，それくらいの大変な，今にして思えば，やっぱり優しすぎたのかなっていうことはすごく思います。友達が殴られるのを見るのが嫌だと。で，私は私で殴られてる子の親御さんが言ってくれるだろうから，まあ，いいかと思っていた。そうこうしているうちに，亡くなったあと友達が教えてくれた話では，だんだんエスカレートしてきて，亡くなったのは2011年の6月なんですが，その1カ月ぐらい前は本当やばかったよなって，何人かでうちにお参りに来てくれた5，6人の部員の子たちで，5月ぐらいから本当にやばかったんじゃない？顔見たら今日はやべえとかって，みんなで今日はやべえよ，気をつけようぜって，みんなで示し合わせるぐらい，すっげえ機嫌が悪くなって，すげえひどくなってきたんですよと。で，恭平も何かたるんでるっていうふうで，ボールを落としたら，何やってんだと。ユニフォーム脱げ，消えろっていって，みんなの前でユニフォームを脱がされて，消えろと言われてます。それくらいのことがあったということは，それも亡くなったあとに聞いた。本人から私は聞くことができなかった。そうやってどんどんエスカレートしていって，私はそういうふうにどんどん事態が悪くなっているっていうことも全く知らずに，本人が今日もまた殴っとった。あんなに人

を殴って楽しいのか。最後，亡くなる１カ月ぐらい前は，俺もあんなふうに殴ったら気分がすっきりするのかなっていうことを言い出した時点で，ちょっとこれはいかんな，かなりまいっていると。いや，これはどうしたらいいのかなと思うようになったんですが，結局私は何もしなかったんですけれど。そうやってエスカレートする直前ぐらい，４月，２年生になってすぐ，彼はもう野球部やめたいと言い出して，私は普段その暴力の話も聞いているし，テスト週間の最中も練習試合や練習もあり，工業高校なので，いろんな資格が取れたりとかするんですね。あの子も高校に入ってすぐに英検の３級を遅ればせながら取って，実は葬儀の日が２級の試験，申し込んでた。で，英語の先生が，校内で，工業高校なので英検を受ける子ってそもそもあんまりいないと。で，亡くなったって聞いたときに，あれ？恭平，英検申し込んだのにって思ったって。何でかっていうと，校内で申し込んだのが恭平１人だったっていうんですね。葬儀の日が試験の日だったという。あの子にしてみたら，いろんなことがやってみたいし資格も取りたいし，そんな気持ちでいて，しかも納得できる野球部じゃないし監督は理不尽だし，やめたい理由は多分たくさんあった。で，やめたいって言ったときに，私はそうだよ，あんないちいち，そんな殴るような監督は私はそもそも好きじゃないし，やめといでやめといで。もうそもそも小学校から野球ばっかりやってきたから，もういろんなことやってみたらいいじゃん。それぐらいちょっときまじめすぎる子だって，いろんなことしてごらんよっていうぐらいで後押しはして，「言いにくかったら，お母さん言いに行こうか」って言ったんですけど，「いや，いい。俺自分で行けるから」と言うんで，そうだよな，親が出てってもなって。やっぱりそこで私は，高校生だから自分でやらせようぐらいに思って放置して，その日帰宅した恭平は，もう明らかに肩を落として帰ってきた。どーんって暗いので，「言えた？やめるって言えた？」って聞いたら，「言った」と。「やめれた？」って聞いたら，「やめれんかった」。「え？何で」って。「え？退部したいって，だめなことがあんの？」って聞いたら，「おまえ，そんなの逃げてるだけだろって言われた。お母さん，俺逃げてるだけかな？」って言うんですね。いや，もうそこで私はすごい逆上しまして，いや，何で野球部やめるのが逃げてることになるのと。いろんなことがやりたいし，そもそも理不尽なとこにいる必要がないし，お母さん学校行こうかって言ったんですが，あのぐらいの年の子にとって，親の言葉よりも自分が好きな野球をやってる監督の言葉って重かったんでしょうね。「いや，いい。もう俺，高校生活諦めた。黙って野球やるわ」って言って，そんな超後ろ向きな発言をして，結局その翌日から，本当に足を引きずるようにして朝家を出て，部活をしばらく続けてました。それが２年生になって４月のこと。１カ月ぐらいそうやって部活に行っていたんですが，その都度今日も殴っとった。それをやっぱり言うわけですよ。今日は誰々がやられた，蹴りが入った，そういうことを。いや，野球やってても全然楽しそうじゃないし，野球の話でいい話が出てこない。嫌な話しか。いや，この子このままこれで続けてると，ちょっとやばいんじゃないかっていうくらいに思えてきたところに，ある日，恭平がものすっごい肩を落として，もう本当に泣きそうな顔をして帰ってきたんですね。それが５月の終わり頃。「今日，俺すっげえ嫌なもの見た。すげえかわいそうだった」もう本当に泣きそうな顔で言うんです。泣きはしなかったんですけど。で，え？何だろうって。もしかして交通事故とか何か死亡事故でも見ちゃったのかな。ドキドキしながら，「何見たの？」って言ったら，部室でトランプをやってたやつらが，先生にばれて殴られたと。５人ぐらいいたそうなんですなんですけれども。練習試合の三つどもえ戦，３校集まって練習試合があった日で，ほかの２校の試合中に空いてる時間でグランドのすみで半分円陣っていうか，ずらっと並ばされて，「昨日，部室でトランプやってたやつは前に出ろ」と言われて前に出る。で，平手打ちで，倒れた子に蹴りまで入れていたと。「すっげえ痛そうだった，すっげえかわいそうだった」って言うんですね。「そう，それはひどいな」なんて言って，さすがに今度ばかりは親御さんが何かしら言うんじゃないかと。トランプもやっちゃいけないっていうことはともかくとして，さすがにちょっとひどいんじゃないかと思っていたんですが，結局その親御さんたちは別に何もしませんでした。それはあとになってわかるんですけれども。その日を境に恭平は部活に行かなくなりました。本当にくそまじめな子で，退部してないのにさぼるっていうことはいけないことだっていうふうにわかっていながらも，部活に行かなくなってしまったっていうことで，行かなくなるのは嫌なものを見ずに済むし，私としてはよかったなと思う反面，やめきれてないから，ちょっともやもやしちゃう

んじゃないかなっていうことはちょっと心配していたんですが，結局すごく早くそのときが来まして，部活に行かなくなって1週間もしなかったと思います。殴ってた監督が，恭平が部活に来てないことに気がついた。10日ぐらいしてから気がつく監督も監督なんですけど，恭平が来てないと。誰か聞いてるかと。いや，誰も聞いてないですと。教官室に来るように言っとけということを言われたと。で，そのチームメイトから恭平にメールがきたんですね。おまえ監督に呼び出されたぞ。それに対して恭平が返事を返してるんですが，メールなんですけどもね。「タイキック，グーパンチ，びんた確定。明日は顔が腫れ上がっていると思いますが気にしないでください」と。そうやって友達に送っている。これも亡くなったあとで，メールを見て私は知ったんですけれど，呼び出されていたことも知らなかったので。結局そうやって友達に返事はしたものの，次の日，恭平は学校を休みました。私には頭が痛い，気持ちが悪い，今日は学校へ行けないと言いました。私は全然呼び出されてることなんて全く知らなかったので，ただ部活行かなくなってからは，どんどん目に見えて落ち込んでいるし，多分学校にも行きたくない気分なんだろうと思って，それまで休みたいって言ったことがない子で，学校まじめに行ってたので，そういうときもあるだろうと。言うってことはよっぽどだろうと思って，熱を測ることもなく，「じゃあ学校には風邪引いたっていって電話しとくから寝てなさい」って言って，その日は休ませました。その次の日，2階から恭平が下りてきたので，「今日はどう？行ける？」って聞いたら，「うん，今日は行ける」って言うんで，昨日よりも幾分すっきりした顔してるし，ちょっと1日休んで気分持ち直したかなぐらいに思って家を送り出したんですが，結局それっきり家に帰ってこなかった。学校に行かず外の場所で亡くなってる。すっきりしたように見えたのは，もう死のうと決めてすっきりした顔だったのかなっていうふうに今なら思うんですが，そのときはわからないもんですね。死のうと決めた人の様子ってわからない。いや，私，昔お店を，コーヒー屋さんをやっていて，お客さんがうちに来た次の日に自殺したことがあったんですが，そのときも全くそんな，まさか亡くなるなんて，自殺するなんて思いもしなかったんですけど，でも亡くなってから考えてみれば，最後にうちに来たときに，やっぱりそれらしいことを言ってるんですよね。でも，まさかそれが自殺とつながってるなんて思いもしなかったので，ああ，こうやって人って死ぬ。死ぬって決めても，こんなに人には，他人にはわからないんだってそのときにすごい痛感して，本当にもうちょっと人の気持ちがわかるようになりたいなってずっと思ってて，恭平が亡くなる5年ぐらい前の話なんですけど，そうやってずっと思ってて，結局自分の子が死ぬって決めて家を出ても，それを見送りながら全然気がつかなかったので，私は本当に気がつかない。まさか死ぬはずがないって思っているので，仕方がないと言ってしまえば仕方がないですし，ここで私が愚かでしたって言っても仕方がない。ただ本当にそのときは気がつかなかったので，悪意は何にもないんですけど，その程度の人間だったんだなって，まずは自覚することから人間は始まるのかなって思ってこうやってしゃべってるんですけど（笑）。で，あの子が帰ってこなかった。その日の夜，見つけられなかったんです。翌日，近所の人，隣町で結局亡くなっていたんですけれども，隣町の廃車置き場，スクラップしてない車が並んでいて，ナンバーだけはずしてあるような，その車の中に入って練炭を家から持ち出して行ったんですね。しかも隣町だったので全然わからなくって，一晩中探してもわからなくって，次の日に現場の近所の人から，変なところに自転車が放置してあるっていうことで，自転車の後ろにステッカーが貼ってあるんですね，高校の。それを見てわざわざ高校に電話をくださって，そのステッカーの番号から恭平のというのがわかって，学校から昼過ぎにうちに電話があって，恭平くんの自転車が隣町で見つかりましたと。行ってみてくださいというので，主人と言われた場所に行ってみたら，自転車が放置してある。で，30台ぐらいスクラップ寸前の車が並んでいて，1台ずつ見ていくんですけども，いないんですよ。やっぱりそれはないだろうって思いながら，もう最後の最後の本当に最後に，1番道路に近い，まさか道路に近い車なんてと思っていた，道路からひょっとしたら見えるくらいの位置の車で亡くなってました。主人はもう全然違うところを見てる。なので私が第一発見者になりました。いなくなった当日の夕方に亡くなっていたということで，私が見つけたときにはもうすっかり冷たくなっていたんです。で，それを見つけたときに私は何を思ったかっていうと，あんなにあの野球部が嫌だったのかと思ったんですね。それぐらいあの子は野球のことしか言わなかった。野球の愚痴しか言わなかっ

た。で，どんどん落ち込んでいって，退部が認められなくって落ち込んでいく様子も，まぬけですけど私がずっと見ていたので，もう亡くなったってわかった瞬間に，そんなに部活動が嫌だったの？やめれなかったことがそんなにつらかったの？ってことですね。そのときには，呼び出されてたことも知らなかった。そういう状態で，恭平が生前すごい暴力について話していた。なので，当然私は学校に,「恭平が生前すごい監督の暴力が嫌だって言っていたんですけど，学校はそれを把握してたんですか？」っていうことをお聞きしたところ，最初は，いや，全然知りませんと。そんなことがあるはずはありませんという。あれ？じゃあ恭平が何か大げさに言ってたのかなって，私たちも動転しているので，まさか学校として，そんな学校が言ってることがうそだと思ってもないし，あれ？って，あれだけ恭平が言ってたことを学校が把握してないってことは，やっぱりなかったのかなって思いながら。でも数日後に友達が，部員が何人か来てくれて，そのときに聞いたんですね。「恭平が，いつもみんなが殴られてて見るのがつらいって言ってたんだけど，そんなに殴られてたの？」って聞いたら，「いや，普通でしたよ」って言うんですよ。「普通っていったいどんなことされるの？」って。子どもたちも緊張してうちに来るので，できるだけフランクにしゃべるように心がけているので,「え？どんなことされてた？」。まあ，殴る蹴るは当たり前。練習試合でバント指示が出てエラーすると，しまったー，ベンチ戻ったらやられると思って戻ると，やっぱりやられるとか。自分では真剣にやってるつもりなんだけど，監督の目から見て，たるんでるって思われたらやられるんで，そのように見られた自分が悪いんですって部員の子が言ったりとか。で,「嫌じゃないの？殴られるって」。大抵5，6人で来てくれるんで,「嫌じゃなの？」ってきいたところ,「もちろん嫌です。それはないほうが絶対野球楽しいし。でも，殴られるのが嫌だっていう理由で野球やめたくないんで，我慢するしかないです」って。「野球続けるなら，もうそれしかないです。止めれないです」って。「なあ」みたいな感じで（笑），もう5人の中で監督の暴力話で盛り上がっちゃうんですね。あのときおまえひどかったよなとか，それぐらいその子たちにとっては，実際殴られたとしても，まだ耐えられるというか，あんまりひどいと部活終わってから部室で,「あの監督いつかやってやる」とかって言いながら，みんなで憂さ晴らしをして乗り越えます，みたいなことを言うんです。この子たちは，多分恭平とはもうそもそも違う。恭平は見るのもつらいって言ったのに，この子たちは殴られて耐えれてしまっている。いつからそれができるようになったかっていうと，例えば少年野球リトルリーグ。本当に厳しいところは厳しくって，小学生のうちからコーチや監督に怒鳴られる，殴られるって結構当たり前のところがある。どこどこのチームはそういうケースがひどいんですよとか。だから，やつらはいっくら殴られても平気なんですって，よく殴られてる男の子の名前挙げたりとか,それぐらい彼らの中では，野球で監督には殴られるっていうのが仕方がないし，受け入れなきゃ野球続けれないし，そうやって思ってやってたんだなっていうのを知りました。この子たちは，多分そうやって部室で憂さ晴らしして，くっそーとか，殴られたら，わーって言って消化していく。多分恭平はその様子を見るのも，え？何でこいつら平気なんだろうって，多分思ってたと思う。私が見てもそう思う。この子たち，最初から平気なわけはないんですけど，平気になっちゃっている。もう本当にそれがかわいそうっていうのか，残念だけど恐ろしいというか，本当にそれをすごく痛感した。子どもたちの生の声でそれを聞いてしまって，殴られてる本人たちが，いや，仕方がないっすよ，自分がたるんでると思われちゃったとか，監督が話してるときに，何か向こうで動くものが見えたからちらっと見たら，「われ，今どこ見た」って言って殴られると。「いや，向こうで動いてるいうのがあったんで」「何で集中できない」がーんっていうのがあった。よそ見した俺が悪いんです。とにかく殴られたほうが悪いっていう意識っていうのは，本当に聞いててつらいというか，カルチャーショックというか，そんな連続でした。学校は体罰を全く確認してなかったんですけれども，そんな部員，子どもたちの生の声を聞いたので，改めて,「恭平も言ってたけど，子どもたちも本当に普段から殴る蹴る，当たり前だって言ってましたよ。それでも，全然知らなかったっておっしゃるんですか」って言ったら,「多少，何か厳しい先生なんで，そういうことはちょっとあったかもしれないんだけど，その手を上げられてた本人，その保護者たちも，みんなそれは指導だと受け止めているので，それは体罰にはならないんですよ，お母さん」と。「殴られた子は文句を言わなかったら，それは体罰とかにならないんですか」って言ったら,「そうなんですよ。

本人たちはそれで強くなると思ってるんで，それは体罰じゃないんです。現に親御さんも，皆さん誰も文句なんか言ってきません」。えっ，それがやっぱりおかしいだろうと思って，今度は県の教育委員会，県立高校でしたので，教育委員会のほうに問い合わせをしたところ，教育委員会はすぐにうちに来まして，改めて教育委員会としての見解を話してくださったんですが，それは体罰は，一般的に殴る側と殴られる側の意識の問題やろうと。双方の受け止め方を勘案して，それが非違行為に当たるのかどうかを校長が判断するということなんで，多少その生徒に手を上げてたとしても，本人がそれを指導として受け止めている以上は，校長もそれは体罰とは認識しないんですよということを県の教育委員会が改めて言ったので…（略）…まあ堂々と言うわけですね，その見解を。で，ちょっと信じられなかったんです，教育委員会はそういう考えなんだなと。学校も，だから同じように言うんだ。で，最終的には，その県の教育委員会の内部文書を行政手続きをして手に入れたところ，遺族に対しての想定問答集，山田さんに対しての想定問答集というのが出てきまして，それが体罰に当たるのかという質問が出た場合，私たちに回答されたそのまんまの文言がきれいに書かれている。それが非違行為に当たるのかどうかを校長が判断するってふうに書かれている。ここが一番暴力，体罰がなくならない原因かなと思いました。本人たちが声を上げなければ，それは体罰ではないって，それは虐待と同じだと思うんですよ。子どもなんて絶対声なんか上げれないし，親は自分を愛してくれて，優しいときもあるから，これは我慢しなきゃいけないって絶対思ってる。だから，声なんか上げるはずがないです。だからといって，虐待か虐待じゃないかというと，絶対虐待なので，それはこの今回の野球部の体罰も同じことが言えるんじゃないかなと私は思っているんですが，この県の教育委員会の見解はいまだに変わっていないんです。今後も愛知県の教育委員会はこうやって，事あるごとにこういう回答をするということだけは確認していきます。で，学校や教育委員会のそういった見解はだんだんわかってきて，全国のいろんなご遺族と神戸に全国学校事故・事件を語る会っていう遺族の集まりがあるんですけど，そこにいつも，2カ月に1回の会合に必ず行って，全国のいろんなご遺族とお話をしていると，やっぱり残念ながら教育委員会はそういう回答をするとか，あったことをなかったことにする，いじめの事実をつかんでいてもなかったことに，最近もありましたけれども，そんなことは非常に当たり前にあるんだっていうこと，うちだけこんなひどいのかなって思ってたら，結構当たり前にあるっていうこともちょっとカルチャーショックではありました。でも，学校や教育委員会の，その見解よりも，何よりも私が一番衝撃を受けたのは，野球部の父母，野球部の保護者たちの反応でした。1カ月ぐらいしてから初めてわが家へ，それまで来なかったんですね。すぐ来てくれるかなって思ってたんですけど，1カ月ぐらいしてから初めて野球部の父母会長が，父母会長というか同級生部員の中の一番の長という感じの方と，あと2，3人連れてこられて，監督の復帰の署名運動がしたい，と言うんですね。あの監督は非常に熱心でいい先生だって言う，子どもたちも一生懸命ついていく。今，あの監督は謹慎になっているせいで，子どもたちは練習試合さえもさせてもらえないんです。対外試合はできない。子どもたちがかわいそうすぎます。山田さんのところは亡くなってるからいいでしょうけど，うちの子たちはこのあともあるんです。これで大学に行こうと思ってる子もいるんです。山田さんの都合でこういうことしないでくださいって言われました。で，監督の復帰の署名運動しますって言われて，それはうちの子はもう部員じゃないので，それを止める権限もないですし，どうぞって言うしかないので，そのまま帰っていただいたんですが，もうその次の週には部員全員と，その保護者全員の署名が集まって，県の教育委員会に提出されたということもありました。さっきの山田さんの子は亡くなってるから関係ないでしょうなんていうのは，本当にうそだと思うかもしれないですけど，本当に。レジュメにもいろいろ書いてあるんですけど，このほかにもすごい実はいろいろ言われてるんですけど，最初の頃は実はあまり録音できてないんですが，途中から，それこそほかのご遺族の方たちから，「山田さん，だまされたと思って，お客さんが来たら必ず録音したほうがいいよ」って言うんですね。えっ，だって，そんな子どもたちが来たりとか，野球部のお母さんたちとか，そんな別に録音する必要ないじゃないですか。学校だって，きっとだから，何ていうのかな，誤解があるかもしれないけど，ちゃんと説明すればわかってくれるし，と私は思ってるんで，それは失礼だと思うんでできないですって言ったら，「山田さん，本当にだまされたと思って，もう何もなけれ

ばそれでいいんだから，でももし何かあったときに，保険と一緒だよ，何かあったときにあとで取っておけばよかったと思っても取れないものだから，とりあえず，だまされたと思って，全部録音しておいて」ってすごく強く言われて，ええ，そんなことがあるのかなと思いながら録音した内容しか載せてないです。なので，例えば電話で言われたことだとか，玄関先でピンポーンで玄関開けたら言われたこととか，録音するその間がなくって言われたことは，こうして人前で話さない。間違いなく録音されている事実しか，私は人前ではしゃべらないですし，やっぱりそんな言いがかりをつけられて，私そんなこと言ってませんって言われてもう終わってしまうんだけど，基本的にやっぱりちゃんと証拠がいつでも出せるものしか，人前では話さないんですけど。今言ったのも，もちろん残ってます。そのほかにも，本当にもういろんなことがオンパレードで出たんですけど，あれくらいのことは指導として我慢するべきだと，野球部員であるならば。手を上げるっていうのは，監督がどれだけ熱心だったかということの表れ，受け入れられないんならさっさとやめればよかったじゃないですか，目の前で言うんですよ（笑），そのくらいの距離（笑）。今でこそ，私もこうやってもう笑い話にして言えますけど，えっ，あれ私って常識だと思ってたこと，もしかしてものすごい間違ってたのかなって，一晩やっぱり考えちゃうんですね。あれ？私の育て方がまずかった？私がもっと厳しく，もっと殴って育てたほうがよかった？あれ？あれ？あれ？って思うんですよ。でも一晩寝ると，私は正気に戻るほうなんで，いやいや，やっぱりおかしいよ，思って。次から次へといろんな保護者が来ては，こういうことを言うんですけれども，名文句だったのは，監督をまず親が信頼しなければと。子どもを預ける以上，親が信頼しなければだめなんですよ。たとえ子どもが殴られて帰ってきたとしても，親は家で子どもをなぐさめて励まして，また送り出すんです。それが親の務めです。山田さんはそれをしていましたかって言われ，えっ，いや，しなかったですって，こういう感じ，おろおろしちゃって，いや，してなかったですって。だから，だめなんですよって言われて。えーっていう，そういうこともありましたし，みんな同じ状況に耐えている，みんな頑張っているのに，それに耐えれなかった恭平くんに問題があったんじゃないですか。恭平くんの心の問題じゃないですか。親御さんの育て方が何か違ってたとか思わないんですかっていうことも言われました。全部野球部の親御さんなんです。野球部の親御さん（笑），そうじゃない人にはそんなことは言われたことないです。だから，多分，その野球部の親御さんたちも，やっぱり誰でもそうですけど，わが子かわいさですよね。自分の子どもが一生懸命野球をやってて，それで大学にも行きたいと頑張って，推薦が取れるかもしれない状況が，野球で大学に行けるかもしれないって。そんなに頑張っている中で，夏の大会も近いのに練習試合もできない。腹が立つのも，それはわかるし，本当にそれは申し訳ない。監督不在になってしまったのは，本当に申し訳ないなって本当に思ったので，教育委員会に早く代わりの監督よこしてくださいっていうことはお願いしたんですけども，いや，ほかにも監督，1人だけじゃなかった，ほかにもコーチもいますし，監督もいるので，教育委員会としてはちゃんとできることはしてますよっていう感じで，ばっさり却下されて，でも保護者の方たちはあの監督に戻ってきてほしいんです。あの監督じゃなきゃだめなんです。それぐらいあの監督っていうのが期待されてる監督で，恭平の学年が入学した年に転勤してきた先生で，とても厳しい，若かったんですけど，当時28歳。若くって，非常にやっぱり熱意にあふれていて，保護者の方たちから，この監督ならいけるかもっていう期待がすごくあった，ということは聞きました。あの監督ならいけるかもしれないって生徒が，甲子園に行けるかもしれないんですよ。そうか，あんまり私自身がプロ野球とかも見ないですし，甲子園というのはあんまり，うちの息子がやっているから野球はちょっとは覚えましたけど，基本的にあまり見ないので，あっ，こんなにみんな甲子園に必死になってるところにうちの子入れちゃったんだ。あ，やっぱり間違いだったのかなということはちょっと思いました。あとは，社会に出たら暴力よりももっと理不尽なことはたくさんある。今，ここで耐える力つけなかったら，社会に出たらどうするんです。今ここで耐えれないんなら，社会に出てもすぐつぶれますよって言われました。今ここに耐えれても，社会に出たら，どうせまた何かにつまづいて死んじゃうんじゃないのっていう，そういうことを言われました。それらは事実といえば事実かもしれないんです。誰がどこでぽきっと折れるか，本当わからない。ただやっぱり，今回この場で，野球部っていう場で，その体罰に耐えなきゃいけなかったのかな，体罰

に耐えて我慢しなきゃいけなかったのかなっていうこと，やっぱりちょっと私はいきつ戻りつしながら，ちょっとぶれるときもありました。それくらいに，体罰容認をする人たちの声って大きくって，多分そんなこと思ってない親御さんも野球部の中に絶対いたと思うんですけど，怖くて声も絶対上げれないくらい非常に勢いのあるお母さんたちなので，試合の最中もかけ声がすごいですね。「いけー，いけー」とかって言うわけですよ。そんな感じでものを言われると，やっぱりそれはちょっと違うんじゃないのってほかのお母さんたちが思ったとしても，多分言えなかっただろうなって思います。復帰の署名運動を，いや，それは，ってもし思ったとしても，自分だけ書かないわけにはいかない状況だったのかなっていうのは理解ができるんで，お母さんたちを一概に責めるつもりはないんですが，やっぱり体罰を容認する声，野球だけにとどまらず，本当に体育会系の部活に熱心な親御さんには，それくらいのものなんだなというのをすごく知りました。本当にそれは残念な，残念なというか，いや，社会を知るいいきっかけになったかもしれません。ここで誰も何も言ってこなくって，何もなかったら，やっぱりまだ今でもどっかに泣いている子がいるんじゃないかっていう，そういうことに私は戻ってしまいますし，そういう状況を知って，でもうちの子みたいな子もいるんだよっていうことを知っていただきたいっていうふうに思います。こういう経験をして，何を思ったかというと，要は保護者の方とか，その監督も言うんですね，これくらいいいと思った，これくらいの体罰は指導のうちだと思っていたと。あのぐらいの体罰は耐えるべきですよって言う親御さんもあって，あれくらいとか，これくらいとかってどれくらいなんですかっていうのを本当に思うんですね。で，それは本当に本人の感覚でしかなくって，監督の感覚でもあったと思うんですけれども，それに全員が耐えなきゃいけなかったのかな。でも，学校っていう場はそもそもいろんな性格の子がいて，いろんな環境で育った子たちがいて，自分と違う人がいるっていうこと知る場でもあるはずなので，他者を認めるっていうことすごい大事だと思いますけど，俺は耐えれたから，おまえも耐えるべきだとか，この監督が言ったことなんですけど，自分もそうやって強くなってきたと思っていた。自分もそうやって野球を続けてきた，殴られ続けてきた。それで強くなったと思っているので，子どもにも同じことをしてしまいましたって言ったんですね。自分が耐えれたぐらいの暴力を子どもにふるっていたのかなって思うんですけれども，監督だけが悪いっていうふうには，ちょっと私はもう思えなくなってきていて，恭平が亡くなるまでは殴る監督だけが悪くって，くずで，その監督さえいなくなれば。時々体罰の話って出てくるので，子どもがけがをすると表沙汰になるっていうのが実際のところなんですけど，それでなければみんな耐えているっていう状況で，たまにそういうニュースが出たりすると，あの監督なんかさっさと辞めさせればよかった，と思ってた。でも，それは非常に甘かったのかなと，実際には監督個人の考えというより，殴ってでも強くしてくれればいいっていう，保護者たちのその熱意が監督にすごいプレッシャーを与えて，勝たなきゃという気持ちにさせて，でも子どもたちはエラーしちゃうし，自分から見たらたるんでるみたいに見えるし，いらっときますよね。それで，手を上げてしまう。押されるように動いてしまったのかなっていうことを，だから，私はあの監督が首になればいいとかっていうことはあんまり実は思っていなくって，どっちかというと，この保護者の，地域の野球を続けている人たちの，この体罰容認の意識っていうのが，どれだけ根強くって，監督個人の，学校で生徒に手を上げちゃいけないなんていう，先生になった当初の気持ちなんてもう，そんなのどうでもよくなるくらい，その保護者も強くって，っていう状況なんだなということを知りました。保護者の意識っていうのはやっぱり自分たちが，自分たちも中学校，高校のときに殴られて強くなったっていうこと，皆さん言葉のはしばしで言うんですね。私はちょっと残念ながら剣道部だったので，厳しいかかり稽古はあったものの，防具を取った状態で殴られたりとかっていうのはなかったですし，団体責任とかっていうこともなかったですし，なので殴られて，あれに耐えて私たち強くなったのよねっていう，そういう感覚はちょっと私にはなかった。でも，それはとっても根強くって，きっとそれは日本中すっごいあると思うんですね。残念ながら私は，その親御さんたちの意識を変えることは多分もう不可能だと思います。自分の経験に基づいて，その経験でもって自分が培われてきたんですよ，今の自分，ある意味では。やっぱり，それって本当に変えれない。それを覆すようなことをこっちがしてしまったら，それは彼らにとってはアイデンティティの崩壊につながってしまうっていうふう

に思えるぐらい，もう本当に真剣ですよ，本気で思ってるんですよ。だから，もうそれは多分変えるのは無理だろうと，体罰容認の人たちの意識を変えるのは無理だなっていうのはすごく感じました。じゃあ，どうしたら体罰はなくなるのかなっていうのをずっと考えて，親の意識を変えられて，今は恭平の友達たちも殴られた俺らが悪いんですとか，たるんでると思われちゃったから俺らが悪いんです。野球を続けるためには殴られるの我慢しなきゃとか，そうやって今，子どもたちが殴られて，そう思い始めてる。これはもう非常に危機的な状況で，それが今，もうこのときから誰も殴られなくなれば，暴力には耐えるものというふうに思ったまま大人になる人はいなくなる。そのときにやっとそれってなくなるのかもしれないなっていうふうに思います。そのために何ができるかっていうと，やっぱり，今，厳罰化っていったらちょっと言葉強いんですけれども，これくらいとか，あれくらいとか，そんなの人によって違う線引きっていうのは，そもそももうなしにして，やっぱりもう生徒の頭に手をふれること自体もアウトだよくらいの，それくらいの強い研修なり，何なりで教員たちに意識づけをしていただいて，いくしかないのかな。とにかく，今殴られている子をゼロにすれば，10年後，20年後にちょっと状況は変わってくるかもしれないかなあっていうのが，ちょっと私の後ろ向きな展望，後ろ向き，ちょっと前向き，ちょっとわかんないんですけど，できることかなっていうことを思いました。こうやってあちこちで恭平の話をさせていただけるっていうのは，本当にしゃべるたびに，私，泣いちゃうんで（笑），しゃべれるんですけど，泣けちゃうんで，ちょっとお聞き苦しいと思うんですが，こうやって聞いていただける場を設けていただける機会っていうのは，本当にありがたいんで，あっちこっちでも行って話させて，同時に自死遺族の支援っていうふうで，遺族がやっぱり子どもを亡くすっていうのは本当に心の一部を欠損したような状態のまま生きていかなきゃいけない。それはもうどうやったって埋めることはできないっていう，そういう気持ちで生きていかなきゃいけないっていうことをもう自分が自覚するしか生きていく方法はないって，そういった話をさせていただいてるんですが，やっぱり私一番話したいのは体罰の話なんですね。教育委員会とか，学校が悪いとか，あんまりそういう話は実はしたくなくって，やっぱり今，殴られている子をゼロにしたい，その一心なんで，今日は本当にありがとうございました。こんな天気の中，来ていただいて本当にありがとうございました。本当にお聞き苦しかったと思いますが，感謝します。ご清聴いただきありがとうございます。

会場　（拍手）

4　船越克真さんの講演

船越　よろしくお願いします。自己紹介でも言うんですけれども，実は私は昔，先生やってましたんで，立ってしゃべるほうが楽なんです（笑）。立ってしゃべらせていただきます。実は，山田さんと僕のセットで体罰の話をするの2回目なんですね。加藤さんがさっき言わはった体罰を考えるネットワークというのを大阪，京都，兵庫のあたりの大学の先生とか，その子ども支援をやってる人たちで作ってるんですけれども，そこでの話でも1回2人セット，あのときはもう1人セットでいはったんですけど，話しまして，順番も山田さんの次，僕でした。はっきり言うて，この話って何しゃべんねんって話です（笑）。

会場　（笑）

船越　困るんですよねってなるんですけど，つたない話といいますか，この山田さんの話から，結局何を僕らは考えていけばいいのかっていう糸口すら見えないぐらいの，もういうたら，すっごい大海原の前に立ってる感じがするんですね。僕がその体罰っていうのにかかわりだしたのは，実は偶然なんですね。あとでももう1回言うんですけれども，少年院に体罰はないんです。っていうと，いや，先生，僕，先生って僕じゃないですよ，ほかの少年院でしばかれたことありますっていいますけど，いったら，どれくらいしばかれたかっつったら，「あほかおまえ，パンです」，で，おしまい。おまえな，それ体罰ちゃうねん，ツッコミいうねんとかっていう冗談を言うくらいの話です。僕が勤めてた少年院は加古川学園っていうところと奈良少年院っていうところで，関西では悪いのが集まるナンバーワン，ナンバーツーです。いうたら，入ってくる者には，北大阪しめてましたとか，奈良ナンバーワンですとか，京都でけんかで負けたことありませんっていうのばっかりです。あとは暴力団の構成員もいます。そんなのが集まってくる少年院なんです。そこで僕は1回も体罰見たことがないんです。で，少年に聞きます。誰も言わへんよ。殴られたこと，ここで先生にしばかれたことある？って。「ないですよ，そんなん」ってみん

な言うんです。で，僕はそれが当たり前だと思ってたんです。ところが，学校で体罰事件があるよっていうのは，報道では知ってたんですけども，よその世界の話だと思ってたんですね。あれはちょっとなんぼ何でもリアリティーがないなって言ってたんです，っていう話を，その体罰ネットワークのときに，たまたま僕の知ってる大学の先生が作り出さはってんで，雑談で言ってたんです。そしたら，船越さん，それは違うよと。これ，現実の話なんですよって言われて，えーっ，理解でけへんわっていうのが僕の体罰に関することのきっかけなんです。だから僕は，いうたら少年非行とか不登校とかっていう子と，それから親御さんを支援して何とか立ち直っていくっていう方向のカウンセリングをしてる人間なんで，体罰は専門じゃないんですね。だけど，えっ，そんなことが現実にあるのっていうのが，僕にとってはショックでした。とりあえず，僕のプロフィールだけ先紹介します。昭和 41 年 7 月 6 日生まれ，48 歳。すいません，これ，49 歳です。7 月 6 日で 49 歳になりました。京都教育大学を出て，在学中に学校の先生，非常勤講師ですけれど 2 年間，週に大体 12 コマぐらいやってました。で，加古川学園に採用されて，途中奈良少年院に転勤して，奈良少年院を退職したあと，中学校と，それから特別支援学校で常勤講師をやって，で，ヘルパーやったりしながらぶらぶらしてたんですけども，平成 24 年に教育相談室を開設しました。自分自身は 3 人の子どもの父親です。これ，少年院でいつも言われてました。おまえ，たたかな言うこと聞かせられへんか。体罰は恥ずかしいんです，少年院では。だって，たたくっていうことは，子どもの目線の行動ですよね。子どもと一緒のレベルですね。子どもと一緒のレベルで子どもを導くことできますか。子どもを導くんだったら，子どもよりも上のレベルにいなきゃいけないんじゃないんですか。先生に求められてるのは，大人であることなんじゃないんですか。これを僕は少年院で教わりました。あっ，ごめんない，すいません。で，ちょっと申し添えておきますけれども，当時の加古川学園っていうところは，スポーツのエリートの先生が集まってました。どれぐらいエリートかというと，在学中に剣道 4 段を取ったっていう人がいます。これ，剣道やってる人はすごいっていうのわかると思うんですけど，在学中に 4 段です。それから，大阪体育大学のラグビー部のキャプテンもいました。それから，実業団でラグビーをやってましたっていう人もいました。それから，フルマラソンの選手でインカレに行った人もいました。そういう，スポーツのエリートばっかりだったんですね。そういう時代でしたから，その先生たちは多分，たたかれて強くなったんだと思います。しかし，少年院でその先生方は一切たたかなかったです。これなんですね。その先生方が僕にいつも教えてくれたのは，これなんです。おまえ，たたくっていうのは子ども目線やないかって。子どもと同じ，少年と同じ目線にいて，おまえ，どうやって彼らを指導すんねん。いつも言われました。少年の側からいってもそうなんですね。結局，たたいて言うことを聞かせる先生ってのは，その程度の大人なんです。少年にその程度の大人やと思われるのが恥ずかしいというふうに僕らは少年院で習いました。さて，ここで，体罰が禁止される理由っていうのをまとめてみました。ちょっと聞いてください。まず，法的な理由としては学校教育法。学校教育法では体罰はこれをしてはならないってありますね。それから刑法などなどってあります。体罰して，体罰自体は暴行だと思うんですけれども，けがさせたら傷害になります。それから，教育的な理由としては，暴力肯定的価値観を植えつけるというようになってます。これ，ちょっと微妙な話をします。少年院に入ってくる子で，暴力沙汰を起こしてくる子の中に，虐待を受けてた子って結構いるんですね。で，もちろん，虐待を受けたことが，その後の暴力的な傾向に直接かかわりがあるっていうのは，今のところ直接かかわりはないというふうに研究ではなってます。だから，いうたら別の理由だっていうふうに今言われているんですけれども，その別の理由が何なのかっていうのは，あとでもちょっと言うんですけれども，いうたら，たたかざるを得ない，人をぼこぼこにせざるを得ない状況にあったということだとってことなんですね。そして，暴力肯定的な価値観を持ってると，いきやすいんですね，暴力に。だから必ずしも，暴力肯定的な価値観を持ってる人は人をたたくかと，そういうわけじゃないんです。ただ，暴力肯定的な価値観を持ってしまうと，たたきやすいっていうことは言えるということです。だから，教育的な理由として，それはアウトですねっていうことです。それから，心理的理由としては心に大きな傷を作る。それはそうです。人に打たれる。それの，何が悪いかっていうと，暴力による他人の支配。これは相手の人格や人権を全く無視した態度だっていうことなん

です。だから体罰はだめですよっていうことなんです。でも体罰なくなりませんね。何ででしょう。なぜなくならないんでしょう。で，一つ，山田さんの言った体罰容認の理論であり，世論っていうのがあると。愛の鞭論ですね。先生は子どものことを考えて，子どもをちゃんと仕上げようと思って，愛の鞭として子どもをたたくんですと。体罰は子どものためです。大人の気持ちの表れなんです。子どもをたたいてる先生の心は泣いてるんですよって言うんですよ。泣いてるか？ただ，喜んでたたいてる人はいないと思うんですけど。あと，これは，言ってわからないとたたくしかない。これ，僕，実は，特別支援学校でこの言葉を聞いたことがあります。その子は知的障がいです。で，言葉があまり通じないんです。で，自分が好ましい人を見るとつねる癖があるんですね，その人を。まあいうたら，愛情表現だったんでしょう。で，担任の先生，ようしてくれはるからって，つねりに行くんですね。そしたら，その担任の先生がその子の手をパチパチたたくんです。で，こんな子はな，こういうふうにしたらなあかへんねんって，パッパッて手をたたいてる。僕，実は体罰だとは思ってなかったんです，それを。これ体罰やったんやって，今だからわかるんですけど，そのときはわかんなかったんです。それから厳しい生活指導。例えば，部活で，自分はこの部活を強くしなきゃいけないっていうことは，これ，桜宮の高校の事件っていうの覚えてられるでしょうか。桜宮高校のバスケ部の先生が，実はこの体罰を考えるネットワークっていうのを作ったきっかけがあの事件なんです。っていうのは，大阪とか関西では，あの事件がものすごくおっきく取り上げられたんですね。で，あれ，殴られているところを動画でアップされてるはずなんですけれども，ひっどい殴られ方してるんですね。で，あの先生が結局くびになって罰金刑だったかな，もらったんですけれども，その人が言ってたのがこれなんですね。この子らを強くして，この子らを大学や実業団に入れなあかんっていうのが，ものすごくプレッシャーとしてあったんです，あの先生に。それから生活指導。これはありますね。悪いことした子をパーンてたたくっていうのはよくあります。それから，これ，教科指導であるんです。どういうことかわかります？これ，学校っていうとあれかもしれないすが，多分ばりばりの進学校やったらやっているところがありますよ。あと，塾です。塾で勉強できひんもんを立たしたりしますね。あれ，体罰ですね。これは親がやってる場合も結構多いんですね。テストで悪い点数取ってきたらしばかれるってやつです。あれです。これ，体罰先生の更生っていうタイトルは，これ何かっていうと，まず見てください。体罰先生は体罰をしてばれましたと。そうなったら，どういう行く末をたどるのかということなんですが，まず，刑事罰。これは桜宮の先生がそうなりました。本当にレアなケースみたいですけどね，刑事罰までいくのは。それがいいことか悪いことかは別にして。でも，免職，停職，減給など，訓戒っていうのも，最近も体罰で訓戒があったと思いますね。訓戒って，皆さんも公務員ですから，公務員の方が多いと思うんで，わかると思うんですけれども，懲戒の中では一番下ですね。減給ってあんまり聞かんのですよね。免職。でも一番多いのはこれですね，おとがめなし。一番多いのはこれですわ。でも，最近は，やっぱりおとがめなしってすると，やっぱこう，いろいろ言われるんでしょうね。まあ，訓戒ぐらいがやっぱちょっと出てきたような気がします。まあ，そういう意味では厳罰化なんでしょうね。こんなもんでしょう。とすると，これがないんですよ。再教育の場がない。つまり，体罰をしてしまった先生は，そのまま野放しにするか切ってしまうかどっちかなんです，再教育の場がないと。人を変えるっていうじゃないですか。よく他人と過去は変えることができないけど，自分と未来は変えることができるから，おまえは頑張れみたいなことを言われますね。それ，とおされたら，僕らにやることないんですよ。子ども変えるの，先生の仕事なんじゃないんですかっていう，これはもう，カウンセラーとか先生の仕事やないんですかっていうふうに僕は思ってますので，いや，人は変えられますよっていつも言います。人間って，認知があって行動が出ます。これは心理としては当たり前のことです。で，認知はじゃあどうやって作られるかといいますと，まず持って生まれたもの。これ，あるんですよ。最近，犯罪心理学では持って生まれたものっていうのに着目する人が増えてます。昔はこれを完全否定してますね。せやけど，どう考えても持って生まれたものってのはあるだろうっていわれてるんです。だから，これを今，解明するのが今，いうたらトレンドみたいになっていますね。ただ，さっきも言ったように，暴力肯定的な価値観を持っていたら必ず暴力を振るうわけではないですよというのと同じ，持って生まれたものとして，暴力肯定的な何かを

持っていたとしても，だから人をたたくとは限らないんですね。それはもう，繰り返して言っておきますけども，そうなんです。で，それからあと，その人の経験。一番多いっていうのは経験でしょうね…（略）…あと育ってきた社会の影響とか環境っていう。そういうのが，いろんなそういう要因が集まって，人間の考え方ってのができてくる。で，その考え方をとおして行動ってのは出てくる。まあ，そういうモデルがあるんですので，人間の行動を変えようとすると，行動を抑制するだけではなく，考え方を変えることです。どうやって変えるかっていうと，環境の調整をすることと，その人を再教育することです。ということになります。ちょっと余談になるんですけども，行動経済学っていう学問があるんですね。たまたま出会った本で。そこで貧困層の多い高校の成績を，いうたらその地域，ボストンなんですけど，ボストンの中でもトップクラスの成績にしたいというふうに校長先生が思われて，で，どうすればいいんでしょう。で，あることをすれば，トップクラスまではいかなかったんですけど，中の上ぐらいまでいったんです。何をしたかっていうと，何だかわかりません？これ，成績がよかった子にお金あげたんです。それが，またお金の額がよくて，確か2000円か3000円。まあ，いうたら正のインセンティブを与えたら人間っていうのは力を発揮するんだっていうことなんです。まあ，お金をあげるなんて，そんなこと，アメリカはするんですね。びっくりですよね。その後にもう一つあったのが，保育園のお迎えの時間をいつも遅れると，みんな。日本と同じなんですね。その保育園は，じゃあ，遅れた人から1ドルか2ドルかな，罰金を取ったんです。そしたらどうなったかというと，遅れる人が増えたんですね。つまり，1ドル払えば遅れてもいいと思うんです。で，遅れる人が続出してしまったんです。だから，逆にお迎えを早く来た人は保育料を下げたんですね。そうすると，みんな時間どおりに来るようになったっていう（笑）。これも結局，負のインセンティブを与えてもだめで，正のインセンティブを与えたほうが人間の行動は変わりますよ。やり方の是非っていうのはあります。お金っちゅうものはやっぱり使いたくないって話なんですけど。ただ，人間っていう行動を抑制するために負のインセンティブをつけるだけではだめで，考え方を変えていかなきゃいけないってのはそこなんです。だから，体罰がだめだって，薄々ここもありますよね。たたいて行動を抑制しても，その人はうまくできるようになりませんよということです。ですので，まとめに入ります。体罰をなくすためには，まず環境の調整です。この環境の調整っていうのは，さっき言いました，例えば体罰肯定的な考え方をなくしていくっていう，世の中になくさなくても，学校ではなくすことは何とかできるんじゃないかと。それから，もう一つは成果主義ですよね。いや，部活，そんなに強くしなくてもいいですよというのを，みんなが認めていってあげてほしいわけです。そうすることによって，いうたら，体罰をしなくてもいいようにしていくと。これ，実は，僕は非行少年の矯正にかかわってきて，常々思ってるんですけれども，非行をなくすためには，その子を非行させないようにする，その子だけに対するアプローチっていうのはまず不完全ですね。どちらかというと，その子が非行しなくてもいいようにしてあげるんです。少年非行で一番多いのは窃盗なんですね。で，年重ねなっていくにつれて，道路交通法とかが増えてくるんですけれども，窃盗が一番多いんですね。窃盗って，何でじゃあ窃盗したんですかっていったら，お金がないが一番多いんですね。僕が少年院の子どもたちから聞いた一番，まあ，窃盗にかわいいとか言ったらだめなんですけれども，かわいい窃盗って何かっていうと，朝パン，つまり，パン屋さんの前に，早朝にパン箱に入れて積んであるでしょ。あれを食べる。

会場　（笑）

船越　で，牛乳が欲しかったら牛乳箱から取ってくるんですよ（笑）。「何でそんなことすんの？」「お金がないから，おなかが減るから」って言うんです。「おなかが減ってもお金あったらせえへんか」って，「そりゃ，しませんよ」と。そりゃ，そうですわ…（略）…それから，もう一つは先生の教育。ただ，先生の再教育については，事例が，僕は見つかりませんでした。京都市，京都府でも，これっていうのはないです。で，僕が今，思ってるのはこの二つかなと思ってます。まず最初は体罰のデメリットをもう1回教える。さっき言った教育的デメリット，それから法的デメリット，それから心理的デメリットというのをちゃんと教える。それからもう一つは，体罰をしなくても教育できるスキルを身につけることです。そうやって，その先生は体罰をしなくてもいいようにしていくっていうのが，僕は大切なんじゃないかというふうに思ってます。体罰をしなくても教育できるスキルっていうのは，実は少年院にたくさんあります。

これ，実は語りますと長いんですね（笑）。ただ，三つだけポイント言っておきますね。一つは信頼できる，好かれる大人になることです。それからもう一つは，尊敬される大人になることです。それからもう一つは，安全な大人になることです。安全な大人って，びっくりするか，どういうことだろうと思うかもしれないけど，この人は自分を傷つけないって思えることですね。それから尊敬できる，この人みたいになりたいなって思える。でね，別にそんな大層なことじゃなくていいんですよ。少年院で，子どもってみんなそうだと思うんですけど，自分ができひんことができたらびっくりしますんで，うーわ，先生，こんなことできるんですか，すごいですねっていうのが，これがそのレベルに，そうやって，体罰をしなくてもいいっていう教育のスキルを身につけてほしいなというふうに思ってます。最後です。せっかく志を持って先生になったんです。子どもの心を殺すような，大人としてそんな恥ずかしい，そんな授業はやめてほしいと僕は思っています。もう一つここにつけたいのは弱い者いじめ。実は，明日の高知大学のほうには弱い者いじめについてです(笑)。弱い者いじめでしょう，そんな体罰なんて。山田さんのこんなんを見てて，どう考えてもこんなん，大人が子どもに対する弱い者いじめですやん，そんなん。情けないっちゅう。体罰をしなくても教育はできます。僕はそれをやっぱり伝えていきたいし，やっぱりわかってもらいたいなって思うし，手前味噌になるんですけれども，少年院はやっています。で，僕もやってきました。僕ができたら，みんなできるはずなんです。山田さんのお話で，本当にたるんでるからたたくっていうのは，これどうも理解ができない。例えばよそ見してた子がいて，よそ見しちゃあかんよって何でたたかないけへんのですか。「ほれ，よそ見せんと」って言ったらしまいでしょう。っていう感じでずっと考えていくと，これたたく理由全然ないんじゃないですか。体罰しなくても教育できますよっていうのを僕は言いたいと思っています。ちょうど時間ぐらいになりまして（笑），ありがとうございます。

会場　　（拍手）